

Title	昭和廿四年度春期伊豆山神社見學旅行記
Sub Title	
Author	山田, 春雄(Yamada, Haruo)
Publisher	三田史学会
Publication year	1951
Jtitle	史学 Vol.24, No.4 (1951. 4) ,p.148(588)- 149(589)
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	彙報
Genre	Journal Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00100104-19510400-0148

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

あるかも知れない。しかし著者が本論文で取扱つたのは、政治思想であつて政治史ではない。著者はあらゆる根本史料について、古代人の國土觀、國家觀、統治者觀、人民觀等をつぶさに研究したものであつて、上記の如き問題には、直接ふる必要がなかつたのであるが、もし本論文にいくらかでも缺くる所があるとすれば、この點ではないかと思はれる。これを要するに、本論文は著者が多年大學教授の職にあつて、不斷に研鑽した結果を披瀝したものであり、わが古代史上における重要な諸問題の研究に、極めて大なる貢獻をなしたものと認められる。依て、著者に文學博士の學位を授與するを適當と認める。

昭和二十五年十二月四日

主 査 委 員

慶應義塾大學教授	日本政治史	今 宮 新			
慶應義塾大學教授	國語學				
慶應義塾大學教授	國文學	折 口 信 夫			
慶應義塾大學教授	史學概論	歐米政治史	擔當	文學博士	間 崎 方 里

昭和廿四年度春期伊逗山神社見學旅行記

春期史學會旅行の選定に當り史學科委員合議の末、舊來の如く

學會の補助も思ふ儘に得られず、又旅行費用も相當の負擔となる故、伊豆の名所、三嶋神社の拜觀を決定、尙秋の旅行は永年の宿望である奈良、京都、白川村の見學を決定せり。以下其の見學旅行の報告を記述する。參加者は淺子、清水先生を始め史學科塾生十名東京驛八時三十五分發沼津行に依り、十一時二十八分三嶋驛着、十二時三嶋神社に到着せり。直ちに一行は晝食を濟ませ古文書見學の準備中を利用、折から同神社に丁度開催中の文化展を見學す、文化展には同神社所藏の他、伊豆神社一般所有者よりの出品物も有り、其の物の眞疑は(伊木先生等の參加を得られず)解らないのが残念であつたが

○頼家奉納の心經一卷

○三嶋本

○日本書記三冊(應永三五年六月一日寫)

○伊豆山神社の國寶、後奈良天皇御宸翰(紺紙金泥、摩訶般若波羅密多心經)

○和漢朗詠集(函入二冊正親町院御筆伊豆山廉島氏藏)

○三嶋神社、寛永古圖

○三嶋神社附近出土品として、古墳出土玉類各種、裝身具各種(夏櫻木源平塚古墳出土)彌生式土器(三嶋市千枚原出土)後期繩紋式土器(三嶋市奥山出土)中期繩紋式土器(三嶋市千枚原出土)其の他石斧、石錘、石鏃、石皿等、

○曆、三島曆、伊勢曆、江戸曆、

○キリシタン關係文書其の他、ハルマの辭書（ゾーフハルマ）

厚生新編……（百科全書の譯本）（原著者はシヨメール）シ

ヨメールの辭書……（オランダ譯）世界地圖、切支丹燈籠拓本、

○製本の方法（卷子本、折本、旋風様、袋とじ、枯葉又ハ胡蝶装、大和綴又ハ列帖）

○版木の變遷

等を見學せり。頼家奉納の心經一卷は將軍直筆として當社に奉納されたもので現在、この本一つあるのみとの註、又病氣平癒を祈る旨の與書あり。文化展を見學後社務所に戻り、尊氏、顯家、頼朝等の古文書及び瓦（男瓦、女瓦又は軒丸瓦、軸平瓦）を見學せり。大體考古學的方面の古墳出土品、瓦（國分寺）等は清水先生の御説明を受け古文書は淺子、清水先生を圍み、一同で讀み非常に得る所大であつたと思ふ。三時半三嶋神社を辭し國分尼寺跡に到り清水先生の御説明により礎石（五重の塔）を見學、四時三嶋驛發途中東洋史學科二年在學中の山崎君宅に寄り所藏品（江戸時代の將軍家所藏品等）を拜見同處にて解散せり。以上にて旅行報告は終りであるが委員の手落ちで通報充分ならず、充分の參加者を得られなかつたのは残念であつたが、一行十二名愉快に見學旅行をなし益々親密の度を増し得た事は大いに慶ぶべき事と思

ふ次第である。（終）

（山田晴雄記）

昭和二十四年度秋期史學科見學旅行記

十一月二日夜行にて東京驛發、一行淺子教授外學生廿二名。

十一月三日朝京都驛着、學生二名を加え總勢廿四名となる。宿舎にて小憩のち本派本願寺（西本願寺）を訪れ、史學科の先輩出雲路氏の案内で、まず桃山建築の傑出した遺構である唐門、大書院、飛雲閣等を見學、をわつて閣内の招賢殿で茶菓の接待にあづかつた。

飛雲閣は元和年間に聚樂第から移建されたものといわれ、滴翠園内の滄浪池に臨む書院造の三層閣で、各層の配置、華頭窓の排列、出書院の入母屋と船入、間の唐破風等機智的な對照の妙と諧調の美をみせている。これはまた金閣の靜に加えるに動即ち前者の瀟洒に加えるに豪壯味を以てしたものともいえよう。閣内には永徳山樂等の筆と稱する襖繪がある。

一行は更に大谷派本願寺（東本願寺）から枳殻邸を問ひ、博物館に赴き智積院の障壁畫、石山寺縁起繪卷等を鑑賞した。

智積院の櫻楓圖は桃山時代の繪畫中最もすぐれたものの一つで現在は長谷川派の作品と解せられている。

十一月四日は二條城から——本城は慶長年間家康が伏見城の一